

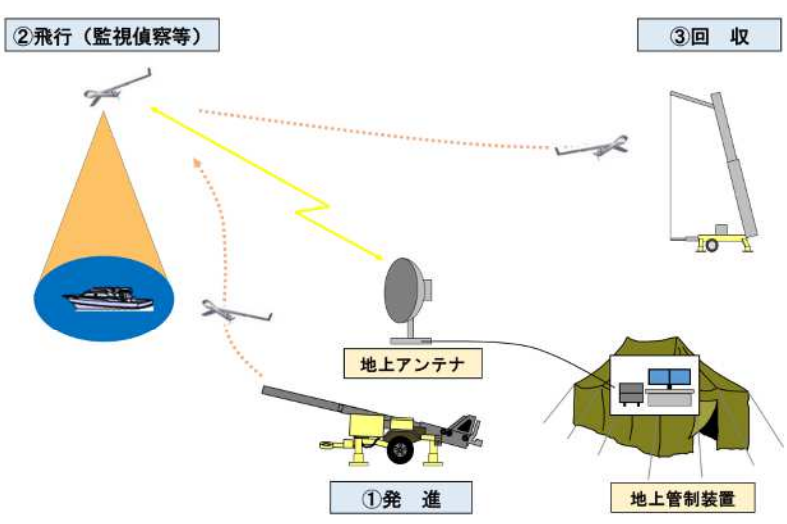

UAV（中域用）による飛行訓練の概要

陸 上 自 衛 隊
第 8 師 団

UAV（中域用）による飛行訓練の概要

全 般	災害時におけるUAV（中域用）の情報収集要領を訓練		訓練地域 及び 使用機材									
飛行時間	令和7年2月26日（水）から27日（木） 0600～0900											
編 成	部隊	第8師団（司令部第2部及び第8情報隊）										
	人員	訓練人員：約30名										
	装備	車両：特大型車両2両を含む約10両 UAV（中域用）：スキャンイーグルII 1機										
使用機材	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">UAV（中域用）スキャンイーグルII</th> </tr> <tr> <td>製造メーカー</td> <td>INSITU社（米国）</td> </tr> <tr> <td>全 幅</td> <td>約3.1m</td> </tr> <tr> <td>全 長</td> <td>約1.6m</td> </tr> <tr> <td>機体重量</td> <td>約20kg</td> </tr> </table> 	UAV（中域用）スキャンイーグルII		製造メーカー	INSITU社（米国）	全 幅	約3.1m	全 長	約1.6m	機体重量	約20kg	<p style="text-align: center;">展開器材</p>  <p style="text-align: center;">使用地域：鹿児島県大崎町菱田海岸及び周辺</p>  <p style="text-align: center;">飛行範囲を志布志港及び石油貯蔵コンビナート上空から2km以上離隔させた範囲で設定</p>
UAV（中域用）スキャンイーグルII												
製造メーカー	INSITU社（米国）											
全 幅	約3.1m											
全 長	約1.6m											
機体重量	約20kg											
訓練時の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○ 飛行訓練前 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 各自治体等において、防災無線等を活用し訓練実施について事前周知 ▪ 最新の気象を確認し、飛行実施又は中止を判断 ○ 飛行訓練間 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 自治体との連携が容易な日中に飛行時間を設定 ▪ 飛行開始・終了時及び不測事態発生時には、機体を目視で確認できるよう安全船及び安全員を配置 ▪ 電波通視を確保するため飛行高度の管理を徹底 ▪ 海上自衛隊鹿屋基地に陸上自衛隊連絡員を派遣し、連絡体制を確保 ▪ 菱田海岸に非常着陸帯を設定するとともに、同地域に安全員を配置して不測事態における安全を確保 ▪ 機体落下時は、関係機関等に速報するとともに、安全船により機体を漁網等で最寄りの港までえい航し現地の自衛官が回収 											
問い合わせ先	陸上自衛隊 第8師団司令部広報室（096-343-3141）											

UAV（中域用）の概要

<p>全 般</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ UAV（中域用）（通称スキャンイーグルⅡ）は無人航空機であり、情報収集活動に使用 ○ UAV（中域用）が収集する映像は地上の管制装置にリアルタイムに伝送可能 		
<p>飛行能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ UAV（中域用）は発進装置（空気圧カタパルト式）により離陸 ○ 回収は翼端フック及び回収装置のロープを用いて実施 ○ UAV（中域用）は、マニュアル又は自動航行により飛行が可能 		
<p>安全機構</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ATCトランスポンダを搭載 ○ 地上管制装置と機体間の通信が不通になり操縦不能になった場合には、事前に設定した経路を飛行、設定した地点に前進し上空で旋回。その後、一定時間経過後、通信が回復しなければ、自動的に設定した地点へ胴体着陸を実施 ○ 視認性向上のため胴体部の上・下面にストロボ灯、両翼部に標示灯を装備 		
<p>運用要領 （イメージ）</p>	 <p>The diagram illustrates the operational cycle of a UAV. It is divided into three main phases: ① Launch (発進), ② Flight (飛行) for surveillance and observation, and ③ Recovery (回収). The launch is performed using a ground-based catapult system (地上発進装置). The UAV is controlled in real-time by a ground control station (地上管制装置) via a ground antenna (地上アンテナ). The flight phase shows the UAV monitoring a target area (represented by a boat in a blue circle). The recovery phase shows the UAV being caught by a hook and a rope from a recovery system (回収装置).</p>	<p>展開地域内 における危 険箇所 （イメージ）</p>	 <p>The aerial map shows a coastal area with a yellow rectangle indicating the deployment area (展開地域) for launch and recovery, and red rectangles indicating hazard zones (危険地帯). A legend (凡例) specifies: yellow for deployment area and red for hazard zones.</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 危険地帯への関係者以外の方の誤進入防止処置 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 付近に安全員を常時又は臨機に配置 ▪ 危険表示及びトラロープ等を適宜設置により注意喚起